



平成28年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成28年11月14日

上場会社名 株式会社小僧寿し 上場取引所 東
 コード番号 9973 URL <http://www.kozosushi.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 森下 將典
 問合せ先責任者 (役職名) 管理本部長 (氏名) 笹田 耕之 TEL 03-5719-6226
 四半期報告書提出予定日 平成28年11月14日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年12月期第3四半期の連結業績（平成28年1月1日～平成28年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年12月期第3四半期	3,727	△18.3	10	△86.8	21	△51.6	0	ー
27年12月期第3四半期	4,562	△50.4	76	ー	44	ー	△10	ー

(注) 包括利益 28年12月期第3四半期 △3百万円 (ー%) 27年12月期第3四半期 △10百万円 (ー%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年12月期第3四半期	0.03	ー
27年12月期第3四半期	△0.34	ー

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
28年12月期第3四半期	2,172	905	41.3	30.16
27年12月期	2,480	897	36.1	30.13

(参考) 自己資本 28年12月期第3四半期 897百万円 27年12月期 896百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年12月期	ー	0.00	ー	0.00	0.00
28年12月期	ー	0.00	ー		
28年12月期 (予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 平成28年12月期の連結業績予想（平成28年1月1日～平成28年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,540	△8.5	31	△62.2	44	0.0	40	ー	1.34

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 有
新規 4社

（社名）株式会社阪神茶月, 株式会社スパイシークリエイト, 株式会社けあらぶ, 介護サポートサービス株式会社
除外 ー社
（社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	28年12月期3Q	29,754,342株	27年12月期	29,754,342株
② 期末自己株式数	28年12月期3Q	6,530株	27年12月期	6,480株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	28年12月期3Q	29,747,823株	27年12月期3Q	29,747,945株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想は、現時点における経営環境において、入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想値と異なる結果となる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については2ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10
(重要な後発事象)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(平成28年1月1日～平成28年9月30日)における我が国経済は、消費増税の引き上げ延期等の経済政策により引続き景気動向は底堅く推移することが期待される一方、中国経済の減速、中東情勢の混乱、更には英国のEU離脱による株価下落が進むなど景気の先行き不透明感が漂う状況が続いております。また、当社グループが属する外食業界におきましては、円高による一部輸入食材価格の低下が見られるものの、海産物の一部商材については食材価格が上昇しております。また、人件費及び人材採用費の上昇が利益を圧迫する要因となっており、引続き楽観視できない状況が続いております。

このような環境の下、当社は平成28年5月13日付で「新生小僧寿しチェーンの成長戦略について」にて、新たな成長戦略に基づく事業運営方針を公表し、「小僧寿しグループ」が持つブランド価値の最大化を成長戦略の基軸とし、今以上に愛されるブランドへと進化するため消費者のライフスタイルとニーズに即した「新生小僧寿し」「新生茶月」のリブランド開発の推進、全国を網羅するフランチャイズ事業体制の構築、及び介護・高齢者向けサービスの新規業態への参入を通じて国内外で有数のフランチャイズ企業を目指して取り組んでおります。

このような新しい事業体制の下、当第3四半期においては次の取り組みをしております。まず、「新生茶月」のリブランド開発の推進として、平成28年8月11日に、「茶月」ブランドある「京都茶月」を東京都江東区に出店致しました。「京都茶月」ブランドのコンセプトは、「花鳥風月」を纏う美しさと、「ひと手間」を惜しまない繊細さにあり、「お土産」として御喜び頂ける商品の数々を取り揃え、新規顧客の開拓を図りました。また、小僧寿しグループの新たなマーケティングの取り組みとして、平成28年7月20日～8月31日の夏休み期間の長期イベントとして、「熊本応援フェア」を開催し、熊本県PRマスコットキャラクターである「くまモン」を登用した「くまモとBOX」を開発し、「小さなお子様を持つ家族層」をターゲットとした商品展開を実施致しました。一方で、新規業態への参入につきましては、高齢者・介護関連事業の取り組みとして、平成28年8月31日付「当社子会社、株式会社けあらぶの「介護サポートサービス株式会社」の子会社化に関するお知らせ」の通り、「サービス付高齢者向け住宅」の運営を行う介護サポートサービス株式会社を子会社と致し、高齢社介護施設の運営及び介護業界における「小僧寿し」の食の提供、そして宅配事業の取り組みに向けたテストマーケティングを実施しております。

以上の結果、第3四半期連結累計期間において、売上高は37億27百万円(前年同期比18.3%減)となりました。前年同期と比較し、株式会社阪神茶月、株式会社スパイシークリエイト及び株式会社けあらぶの子会社化により売上高は2億6百万円増加しておりますが、持ち帰り寿司事業において、前年度に実施した直営店のフランチャイズ化や不採算店舗の閉鎖による売上高の減少等が影響しております。また、寿司FC事業においては、フランチャイズ加盟店の減少に伴う食材等の販売量の減少と前期に実施した独立加盟推進を当期は実施しなかったことによる加盟金収入の減少を主因として3億42百万円の減収となっております。

営業利益につきましては10百万円(前年同期比86.7%減)となりました。これは前期に実施した直営店のフランチャイズ化による加盟金収入(53百万円)の減少、当期に子会社化した株式会社阪神茶月、株式会社スパイシークリエイトでの赤字継続、株式会社けあらぶにおける新規事業の立ち上げ費用負担等の影響によるものであります。経常利益につきましては、海外事業からの受取配当収入等もあり、21百万円(前年同期比51.6%減)となっております。親会社株主に帰属する四半期純利益におきましては0百万円(前年同期は10百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。

各セグメントの業績は以下のとおりであります。

なお、当第3四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しております。

①持ち帰り寿司事業等

持ち帰り寿司事業等は、持ち帰り寿司事業及びその他飲食店事業より構成されております。持ち帰り寿司事業におきましては、直営店として「小僧寿し」「鉢巻太助」「茶月」及び「茶月」のリブランド店である「京都茶月」を126店舗(前年同四半期比で12店舗増)及びその他飲食店事業として、スパイシークリエイトが展開する飲食店を9店舗展開しており、持ち帰り寿司事業等の運営店舗数は、合計135店舗(前年同四半期比で14店舗増)となりました。同セグメントの売上高は29億93百万円(前年同期比14.3%減)となっております。売上高が前年同期と比較し減少しておりますが、この要因は主に、前第1四半期に実施した、不採算店舗の閉鎖に伴う店舗数減少の影響により、売上高が減少したものであります。一方で不採算店舗の撤退に伴う収益性の改善により、営業利益は144百万円(前年同期は23百万円の営業損失)となりました。

②寿司FC事業

寿司FC事業におきましては、フランチャイズ加盟店への経営指導と食材販売を主たる事業としており、フランチャイズ加盟店数は192店舗(前年同期比19店舗減)となっております。当第3四半期連結累計期間におきましては、同事業の購買物流の合理化等により収益性は改善されたものの、フランチャイズ加盟店数が減少した

点、フランチャイズ加盟金収入が減少した点などの影響により、同セグメントの売上高は、7億25百万円（前年同期比32.1%減）、営業利益は94百万円（前年同期比59.8%減）となっております。

③介護・福祉事業

介護・福祉事業におきましては、株式会社けあらぶが展開するデイサービスを1施設、介護サポートサービス株式会社が展開するサポート付高齢者向け住宅を3施設運営しており、売上高は9百万円となりましたが、新規事業の立ち上げに伴う費用が発生しているため、営業損失は6百万円となっております。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は21億72百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億8百万円の減少となりました。主な要因としては、のれんの計上が1億21百万円あったものの、現金及び預金が2億3百万円減少、受取手形及び売掛金が1億38百万円減少したこと等によるものです。

負債合計は12億67百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億15百万円の減少となりました。主な要因としては、支払手形及び買掛金が46百万円減少、未払金が46百万円減少、1年内返済予定の長期借入金が2億円減少したこと等によるものです。

株主資本は、当第3四半期連結累計期間の業績を反映し、0百万円減少し8億97百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想につきましては、当第3四半期連結累計期間の業績を鑑み、平成28年2月17日に公表した平成28年12月期の連結業績予想を修正いたしました。詳細につきましては、本日（平成28年11月14日）公表いたしました「連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

第2四半期連結会計期間より、株式会社阪神茶月は株式の取得により子会社となったため、連結の範囲に含めております。

第2四半期連結会計期間より、株式会社スパイシークリエイトは株式の取得により子会社となったため、連結の範囲に含めております。

当第3四半期連結会計期間より、株式会社けあらぶは重要性が増したため、連結の範囲に含めております。

当第3四半期連結会計期間より、介護サポートサービス株式会社は株式の取得により子会社となったため、連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（企業結合に関する会計基準等の適用）

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。）、「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。）及び「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更しております。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

これによる損益に与える影響はありません。

（平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用）

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号 平成28年6月17日）を第2四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

これによる損益に与える影響は軽微であります。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	760,283	556,796
受取手形及び売掛金	311,982	173,110
商品	116,066	70,081
貯蔵品	16,508	16,565
その他	344,952	312,501
貸倒引当金	△56,698	△29,807
流動資産合計	1,493,094	1,099,248
固定資産		
有形固定資産	126,411	134,395
無形固定資産		
のれん	—	121,264
その他	27,175	27,634
無形固定資産合計	27,175	148,898
投資その他の資産		
投資有価証券	7,232	7,232
敷金及び保証金	791,694	759,232
破産債権等に準ずる債権	218,137	215,058
その他	117,463	103,559
貸倒引当金	△300,242	△295,142
投資その他の資産合計	834,286	789,940
固定資産合計	987,872	1,073,233
資産合計	2,480,967	2,172,481

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	301,708	255,178
短期借入金	—	27,201
1年内返済予定の長期借入金	200,000	—
未払金	458,831	411,846
未払法人税等	11,743	12,103
賞与引当金	1,387	1,832
資産除去債務	2,701	11,508
店舗等閉鎖損失引当金	—	514
その他	133,523	134,974
流動負債合計	1,109,895	855,159
固定負債		
社債	—	8,500
長期借入金	—	16,336
資産除去債務	247,961	269,023
その他	225,236	118,421
固定負債合計	473,198	412,281
負債合計	1,583,093	1,267,440
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,769,338	2,769,338
資本剰余金	1,521,820	1,521,820
利益剰余金	△3,387,337	△3,386,476
自己株式	△7,409	△7,415
株主資本合計	896,412	897,266
新株予約権	1,462	—
非支配株主持分	—	7,774
純資産合計	897,874	905,040
負債純資産合計	2,480,967	2,172,481

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年9月30日)
売上高	4,562,299	3,727,770
売上原価	2,110,083	1,666,605
売上総利益	2,452,216	2,061,164
販売費及び一般管理費	2,375,501	2,050,950
営業利益	76,715	10,213
営業外収益		
受取利息	879	500
受取配当金	—	10,265
受取賃貸料	101,925	96,783
その他	13,782	5,964
営業外収益合計	116,587	113,512
営業外費用		
支払利息	16,541	2,809
賃貸資産関連費用	95,564	89,948
その他	36,771	9,477
営業外費用合計	148,878	102,235
経常利益	44,425	21,491
特別利益		
固定資産売却益	17,896	—
その他	9,667	3,262
特別利益合計	27,563	3,262
特別損失		
固定資産除却損	3,603	11,015
特別退職金	47,261	—
店舗閉鎖損失	16,283	—
店舗閉鎖損失引当金繰入額	—	4,890
その他	7,051	8,378
特別損失合計	74,200	24,284
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△2,211	468
法人税、住民税及び事業税	7,873	4,440
法人税等合計	7,873	4,440
四半期純損失(△)	△10,085	△3,972
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	—	△4,832
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△10,085	860

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年9月30日)
四半期純損失(△)	△10,085	△3,972
その他の包括利益		
その他の包括利益合計	—	—
四半期包括利益	△10,085	△3,972
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△10,085	860
非支配株主に係る四半期包括利益	—	△4,832

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成27年1月1日至平成27年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	持ち帰り寿司 事業等	寿司FC事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,493,720	1,068,579	4,562,299	—	4,562,299
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	3,493,720	1,068,579	4,562,299	—	4,562,299
セグメント利益又は損失(△)	△23,732	234,822	211,089	△134,374	76,715

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用134,374千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の本社管理部門の配賦不能営業費用であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成28年1月1日至平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	持ち帰り寿司 事業等	寿司FC事業	介護・福祉事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,993,077	725,652	9,040	3,727,770	—	3,727,770
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	2,993,077	725,652	9,040	3,727,770	—	3,727,770
セグメント利益又は損失(△)	144,365	94,456	△6,604	232,217	△222,003	10,213

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用222,003千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の本社管理部門の配賦不能営業費用であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

第2四半期連結会計期間において、株式会社阪神茶月及び株式会社スパイシークリエイトの株式を取得したことにより、新たに連結の範囲に含めております。これにより「持ち帰り寿司事業等」及び「寿司FC事業」セグメントののれんが106,863千円発生しております。

当第3四半期連結会計期間において、株式会社けあらぶは重要性が増したため、また介護サポートサービス株式会社は株式を取得したため、新たに連結の範囲に含めております。これにより「介護・福祉事業」セグメントののれんが11,256千円発生しております。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第3四半期連結会計期間より、株式会社けあらぶ及び介護サポートサービス株式会社を連結の範囲に含めたことに伴い、当第3四半期連結累計期間より「介護・福祉事業」を報告セグメントとして新たに追加しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。